

スポーツ振興計画作成のための調査

— 愛媛県西予市の場合 —

(保健体育研究室) 堺 賢 治
(保健体育研究室) 藤 原 誠
(西予市教育委員会) 伊賀上 哲 旭

A survey for making sports promotion plan

— The case of Seiyō-city, Ehime —

Kenji SAKAI, Makoto FUJIWARA and Tetsuaki IGAUE

(平成20年6月11日受理)

I. はじめに

2000年文部科学省(当時は文部省)は「スポーツ振興基本計画」を策定した¹⁾。それによると、第一に、生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実をする。第二に、我が国の国際競技力の総合的な向上を図る。第三に、生涯スポーツ及び競技スポーツと学校体育・スポーツとの連携をする、としている。これを実現するためには、県市町村において、スポーツ振興計画の策定が必要になってくるものと思われる。

愛媛県でも2017年に開催予定の国民体育大会(以下、国体とする)に向けて、2003年「愛媛県スポーツ振興計画—スポーツ立県えひめ2017—」を策定した²⁾。その内容としては、生涯スポーツの普及、競技スポーツの振興、ジュニアスポーツの充実、スポーツ施設の整備・活用、国体の開催準備、をあげている。

スポーツ振興計画作成のためには、住民のスポーツニーズを把握し、グランドデザインを描くことがスポーツの発展のために大変重要なことである。このような調査は、別の言葉で言えばスポーツ政策学的研究に結びついてくる。研究成果によって地域を変えるというようなスポーツ政策学的な研究は今まであまりなされていない³⁾。

そこで、本研究では、愛媛県西予市^(注1)を選び、2017年国体開催を踏まえ、市民の元気を創造することと、市民の健全な発達や健康の保持・増進に役立てるため、市民のニーズ調査を実施し、向こう10年間の振興計画を策

定する、ことを目的にした。

(注1) 西予市は、愛媛県の南西部に位置し、東は高知県梶原町と愛媛県久万高原町、南は鬼北町と宇和島市、北は八幡浜市と大洲市に接している。また、西予市は、2004年4月1日に明浜町・宇和町・城川町・野村町・三瓶町が合併して誕生した。人口は2006年現在45,649人、65歳以上の高齢者が人口に占める割合は34.2%であり、3人に1人は高齢者という非常に高齢化が進んでいる。

II. 調査方法

対 象：西予市の20歳代～70歳未満の住民2645名(住民の10分の1)

期 日：2006年7月上旬～8月上旬

方 法：質問紙による郵送調査

回収率：回収数 1358部 回収率 51.3%

有効回収数 1229部 有効回収率 46.4%

男性 513 (41.7%) 女性716 (58.6%)

III. 結果及び考察

1. スポーツ活動

(1) 運動やスポーツの好き嫌い

表1は運動やスポーツの好き嫌いを示したものである。全体では、「自分でするのを見るのも好き」「どちらかといえば自分でする方が好き」と答えている人が58.7%であり、愛媛県が実施した2003年の調査(49.2%)²⁾と比較すると、西予市の住民の方が多くなっている。ま

た、「どちらかといえば見る方が好き」な人を含めると94.7%となっており、大多数の市民が運動やスポーツに対し好意的である。

性別で比較すると、「自分でするのも見るのも好き」「どちらかといえば自分でする方が好き」と答えている人は、男性63.9%、女性54.9%であり、男性の方が、スポーツに対して好意的であることがわかる。

表1 運動やスポーツの好き嫌い (%)

項目	男性	女性	全体
自分でするのも見るのも好き	48.9	40.8	44.2
どちらかといえば自分でする方が好き	15.0	14.1	14.5
どちらかといえば見る方が好き	31.6	39.2	36.0
自分でするのも見るのも嫌い	3.1	4.1	3.7
無回答	1.4	1.8	1.6

P<0.05

(2) 実施種目

表2は、過去1年間に行ったスポーツの種目をあらわしたものである。全体では、「散歩・ウォーキング」が30.5%と最も多くなっており、次いで、「レクリエーションバレーボール」の20.2%、「軽い体操」の12.9%、「ソフトボール」の8.5%となっている。特徴としては、個人でできる「散歩・ウォーキング」や「軽い体操」、多人数でできる「レクリエーションバレーボール」や「ソフトボール」をよく実施している。

性別で比較すると、男性では、「野球」「ソフトボール」「ゴルフ」「ジョギング・ランニング」の項目で、上回っており、女性では、「散歩・ウォーキング」「レクリエーションバレーボール」「軽い体操」「水泳」の項目で

表2 実施種目 (%)

項目	男性	女性	全体
散歩・ウォーキング	25.3	34.2	30.5
レクリエーションバレーボール	16.0	23.2	20.2
軽い体操	8.2	16.3	12.9
ソフトボール	18.3	1.5	8.5
水泳	3.1	7.3	5.5
バレーボール	4.3	5.7	5.1
ジョギング・ランニング	7.2	3.6	5.1
ボーリング	3.7	4.2	4.0
ゴルフ	7.6	0.8	3.7
野球	7.8	0.6	3.6
バドミントン	2.1	4.5	3.5
卓球	2.7	1.8	2.2
サッカー	4.3	0.4	2.0
スキー・スノーボード	2.1	1.8	2.0
その他	17.8	16.1	16.6

(2つまで○印)

上回っている。男性は球技などの集団スポーツが多く見られ、女性では個人で手軽に行うことのできる健康づくり的な運動が多くみられる。

(3) 実施頻度

表3は、過去1年間のスポーツ実施頻度をあらわしたものである。全体では、「週に3回以上」13.7%、「週に1回～2回」24.5%であり、週に1回以上スポーツを行っている人は38.2%となっている。これを愛媛県の調査(27.6%)²⁾と比較すると、よくスポーツを実施しているといえる。しかし、内閣府が実施した2004年の調査(44.4%)⁴⁾に比べて低い。

性別で比較すると、週1回以上スポーツを行っている人は、男性34.5%、女性40.8%と女性の方がよく実施している。一方、行っていない人も、女性の方が33.6%と男性の27.0%を上回っており、女性の方に二極化現象がおこっている。

表3 実施頻度 (%)

項目	男性	女性	全体
週に3回以上	13.6	13.7	13.7
週に1～2回	20.9	27.1	24.5
月に1～2回	17.3	9.6	12.9
年に数回	21.2	15.4	17.8
行っていない	27.0	33.6	30.8
無回答	0.0	0.6	0.3

P<0.001

(4) 実施場所

表4は、過去1年間のスポーツ実施場所をあらわしたものである。全体では、「公共スポーツ施設(学校を除く)」の27.9%が最も多く、次いで、「学校の体育施設」の23.3%、「道路」の19.1%となっている。「公共スポーツ施設(学校を除く)」と「学校の体育施設」は、表2

表4 実施場所 (%)

項目	男性	女性	全体
公共スポーツ施設(学校を除く)	32.4	24.7	27.9
学校の体育施設	23.0	23.5	23.3
道路	18.5	19.6	19.1
自宅	6.4	9.1	8.0
野外(海・山・川)	8.8	5.0	6.6
商業スポーツ施設	7.6	4.7	5.9
公園・空き地	7.0	2.7	4.5
職場のスポーツ施設	1.4	1.7	1.5
その他	1.9	4.7	3.6

(2つまで○印)

の過去1年間スポーツ実施種目で多くなっている「レクリエーションバレーボール」「バレーボール」「ソフトボール」「野球」の活動場所になっているものと思われ、市や学校の体育・スポーツ施設の果たす役割は大きい。性別で比較しても、差はほとんどみられない。

(5) 今後のスポーツ活動

表5は、今後行いたいスポーツ種目についてあらわしたものである。全体では、「散歩・ウォーキング」の20.6%が最も多く、次いで、「水泳」の16.9%、「軽い体操」の16.9%、「ヨガ」の13.5%となっている。表2の過去1年間のスポーツ実施種目と比べて、「散歩・ウォーキング」「軽い体操」など、現在も行っているスポーツを今後も引き続き行いたいと思っている人が多いといえる。また、「水泳」「ヨガ」などの個人で手軽に行うことのできる健康づくり的な運動が上位に入っている。

性別で比較すると、男性では、「ゴルフ」「ソフトボール」「野球」「サッカー」などの球技が多くみられる。女性では、「水泳」「軽い体操」「ヨガ」「バドミントン」などの個人で気軽に行うことのできる健康づくり的な運動が多くみられる。

表5 今後のスポーツ活動 (%)

項目	男性	女性	全体
散歩・ウォーキング	19.9	21.1	20.6
水泳	9.9	21.9	16.9
軽い体操	8.4	20.7	15.5
ヨガ	5.7	19.1	13.5
レクリエーションバレーボール	7.6	10.6	9.4
バドミントン	4.5	8.8	7.0
テニス	7.6	5.0	6.1
ダンス	1.6	8.5	5.6
ゴルフ	10.3	1.8	5.4
卓球	4.5	5.3	5.0
太極拳	4.1	5.6	5.0
エアロビクス	0.8	7.7	4.8
ハイキング	5.8	3.5	4.5
ボーリング	5.8	3.4	4.4
ジョギング・ランニング	7.0	2.5	4.4
ソフトボール	9.0	0.6	4.1
スキー・スノーボード	4.3	2.7	3.3
登山	4.7	2.4	3.3
サイクリング	5.1	2.0	3.3
野球	6.8	0.3	3.0
サッカー	6.6	0.0	2.8
その他	15.0	11.2	12.9

(2つまで○印)

2. 総合型地域スポーツクラブ

(1) 加入希望の有無

表6は、総合型地域スポーツクラブへの加入希望の有無をたずねたものである。全体では、「加入したい」20.1%、「誘われれば加入したい」48.0%と加入希望は68.1%であり、約7割の人が加入を希望している。

性別で比較すると、男性では64.1%、女性では71.1%と女性の方に加入希望者が多い。

表6 加入希望の有無 (%)

項目	男性	女性	全体
加入したい	19.5	20.5	20.1
誘われれば加入したい	44.6	50.6	48.0
あまり加入したくない	26.1	19.1	22.1
加入したくない	9.4	7.8	8.5
無回答	0.4	2.0	1.3

P<0.05

(2) 会費を払う条件

表7は、西予市に総合型地域スポーツクラブが設立された場合、どのような条件がととのえば会費を出して入会してもよいかをたずねたものである。全体では、「自分のレベルにあった運動が出来る」の60.0%が最も多く、次いで、「健康をチェックしてもらえる」の39.9%、「安い値段でスポーツが出来る」の36.9%、「専門的な知識を持った指導者がいる」の27.4%「一緒に活動する仲間がいる」の26.9%、「いつでもスポーツができる」の23.9%となっている。このことから、多種多様なスポーツ教室を用意し、定期的に健康をチェックできるようなクラブづくりが必要であるといえる。

性別で比較すると、「自分のレベルにあった運動が出

表7 会費を払う条件 (%)

項目	男性	女性	全体
自分のレベルに合った運動ができる	53.6	64.5	60.0
健康をチェックしてもらえる	38.2	41.1	39.9
安い値段でスポーツができる	28.3	43.0	36.9
専門的な知識をもった指導者がいる	26.3	28.2	27.4
一緒に活動する仲間がいる	24.6	28.5	26.9
いろいろなスポーツができる	30.4	22.8	26.0
いつでもスポーツができる	23.4	24.3	23.9
スポーツ以外の活動(文化活動)もある	14.8	27.1	22.0
子どもと一緒に参加できる	20.1	18.9	19.4
多様なプログラムを提供してくれる	17.3	16.6	16.9
いろいろな世代と交流できる	17.9	13.1	15.1
その他	2.7	2.7	2.7

(あてはまるものすべて○印)

来る」「安い値段でスポーツが出来る」「スポーツ以外の活動（文化活動）もある」の項目で、女性の方が男性よりも多くなっている。

(3) 払ってもよい年会費

表8は、西予市に総合型地域スポーツクラブが設立された場合、どの程度の年会費を支払えるかをたずねたものである。全体では、「3,000円以上～5,000円未満」が28.7%と最も多く、次いで、「2,000円以上～3,000円未満」の22.4%、「1,000円以上～2,000円未満」の15.9%となっている。これより、会費の設定としては、「2,000円以上～5,000円未満」の間で設定するのがよいと思われる。性別で比較すると、差はみられない。

表8 払ってもよい年会費 (%)

項目	男性	女性	全体
10,000円以上	2.3	1.3	1.7
5,000円以上～10,000円未満	17.5	14.2	15.6
3,000円以上～5,000円未満	27.5	29.5	28.7
2,000円以上～3,000円未満	24.0	21.2	22.4
1,000円以上～2,000円未満	13.6	17.6	15.9
1,000円未満	13.3	14.0	13.7
無回答	1.8	2.2	2.0

N.S.

(4) 開催してほしいスポーツ教室

表9は、開催してほしいスポーツ教室についてあらわしたものである。全体での上位12位までを上げると、「軽い体操」の27.3%が最も多く、次いで、「筋力トレーニング」の20.8%、「水泳」の18.5%、「ヨガ」の17.2%、「ストレッチ」の16.8%、「栄養教室」の15.4%、「家庭医学教室」の12.7%、「レクリエーションバレーボール」の11.0%、「太極拳」の8.0%、「ダンス」の6.8%、「バドミントン」の6.7%となっている。このことから、商業スポーツクラブで行っているような種目（筋力トレーニング、水泳、ヨガ、ダンス）、個人で手軽に行うことのできる健康づくり的な運動（軽い体操、ストレッチ、ウォーキング）、個人もしくは少人数で行うことのできる球技（レクリエーションバレーボール、バドミントン）に高いニーズがあることがわかる。また、「栄養教室」「家庭医学教室」などの教室もあり、西予市民の多様なニーズがうかがわれる。

性別で比較すると、男性では、「筋力トレーニング」

「ジョギング・ランニング」「武道」「ソフトボール」「グラウンド・ゴルフ」「サッカー」が女性よりも多くなっている。一方、女性では、「軽い体操」「ヨガ」「水泳」「栄養教室」「ストレッチ」「家庭医学教室」が男性よりも多くなっている。これらのことから、男性は、トレーニングや球技などの体力志向の教室が多く、女性では、個人でも手軽に行うことのできる健康づくり的な運動や健康教室などの健康志向の教室が多くなっている。

表9 開催してほしいスポーツ教室 (%)

項目	男性	女性	全体
軽い体操	18.7	33.5	27.3
筋力トレーニング	29.0	14.9	20.8
水泳	14.6	21.2	18.5
ヨガ	8.6	23.5	17.2
ストレッチ	12.3	20.1	16.8
栄養教室	8.4	20.4	15.4
家庭医学教室	9.7	14.8	12.7
ウォーキング	12.1	13.0	12.6
レクリエーションバレーボール	10.3	11.5	11.0
太極拳	9.9	6.6	8.0
ダンス	2.9	9.5	6.8
バドミントン	6.4	6.8	6.7
テニス	6.4	5.9	6.1
エアロビクス	2.5	8.7	6.1
ジョギング・ランニング	9.2	3.6	5.9
武道（柔道・剣道・空手・拳法など）	9.4	3.2	5.8
卓球	4.9	5.6	5.3
ソフトボール	9.7	0.7	4.5
バレーボール	4.1	4.2	4.1
サイクリング	6.6	2.0	3.9
グラウンドゴルフ	6.8	1.5	3.7
サッカー	7.2	0.4	3.3
その他	14.4	10.6	12.2

(3つまで○印)

3. 愛媛国体

(1) 愛媛国体の認知度

表10は、2017年に開催される愛媛国体が開催されることを知っているのかをたずねたものである。全体では「知っている」と答えた人は45.1%（愛媛県11.7%）²⁾であり、約半数の人が知っている。

性別で比較すると、「知っている」と答えた人は、男性では53.2%、女性では39.2%となっており、男性の方

表10 愛媛国体の認知度 (%)

項目	男性	女性	全体
知っている	53.2	39.2	45.1
知らない	46.2	60.4	54.4
無回答	0.6	0.4	0.5

P<0.001

がよく知っている。

(2) 強化種目

表11は、愛媛国体に向けて選手を育成するために西予市がどのような種目に力を入れたらよいかたずねたものである。全体では、「相撲」の38.4%が最も多く、次いで、「陸上競技（長距離など）」の35.0%、「野球」の23.4%、「バレーボール」の15.8%となっている。これは、野村町で行われる乙亥相撲や、宇和町が主催するマラソン大会や駅伝大会の影響によるものと考えられる。

性別で比較すると、男性は、「相撲」「サッカー」「ソフトボール」が多いのに対し、女性では「バレーボール」が多い。

表11 強化種目 (%)

項目	男性	女性	全体
相撲	43.7	34.6	38.4
陸上競技（長距離など）	35.3	34.8	35.0
野球	22.0	24.4	23.4
バレーボール	8.4	21.1	15.8
サッカー	15.0	9.6	11.9
剣道	7.0	7.4	7.2
ソフトボール	10.5	3.8	6.6
水泳	4.9	7.3	6.3
卓球	4.7	4.6	4.6
柔道	4.1	3.1	3.5
その他	13.0	16.7	15.2

(2つまで○印)

(3) スポーツクラブ・部活動のあり方

愛媛国体に向けてスポーツクラブ・部活動の今後のあり方についてどうあるべきかたずねのが表12である。全体では、「小・中・高等学校の一貫指導を進める」と答

表12 スポーツクラブ・部活動のあり方 (%)

項目	男性	女性	全体
小・中・高等学校の一貫指導をすすめる	50.7	35.5	41.8
地域のスポーツ指導者を育成する	34.5	33.9	34.2
市内のスポーツ指導者を部活動に派遣する	23.6	26.0	25.0
地域のスポーツクラブと子どもたちとの連携を図る	13.8	15.9	15.1
市外や県外との合同練習会を設ける	11.9	13.7	12.9
一流選手を招き教室を開く	13.8	11.7	12.6
ジュニアスポーツの施設使用料を無料にする	9.6	13.7	12.0
市内の子どもの大会を増やす	8.4	4.9	6.3
種目団体との連携を図る	5.3	6.7	6.1
市内の小学校の合同練習会を増やす	4.9	5.3	5.1
その他	3.5	5.2	4.5

(2つまで○印)

えた人が41.8%と最も多く、次いで、「地域のスポーツ指導者を育成する」の34.2%、「市内のスポーツ指導者を部活動に派遣する」の25.0%、「地域のスポーツクラブと子どもたちの連携を図る」の15.1%、「市外や県外の小学校との合同練習会を設ける」の12.9%となっている。地域のスポーツ指導者を養成し、スポーツクラブや部活動に派遣し、小・中・高校の一貫指導体制を作ることなどを指摘している。

性別で比較すると。「地域のスポーツ指導者を育成する」と答えている人は、男性が50.7%、女性が35.5%となっており、男性の方が多くなっている。その他の項目ではあまり差はみられない。

4. 行政への要望

(1) 整備してほしいスポーツ施設

表13は、西予市に今後特に整備してほしいスポーツ施設をあらわしたものである。全体では、「温水プール」が40.9%と最も多く、次いで、「トレーニング室」の24.8%、「多目的広場」「近所の広場や公園」の16.8%となっており、商業スポーツクラブに整備されているような施設が多くみられる。

性別で比較すると、「温水プール」と答えている人は、女性の45.8%が男性の34.1%を上回っている。

表13 整備してほしい施設 (%)

項目	男性	女性	全体
温水プール	34.1	45.8	40.9
トレーニング室	24.4	25.1	24.8
多目的広場	19.7	14.8	16.8
近所の広場や公園	14.6	18.4	16.8
体育館	12.1	12.0	12.0
ハイキングコース	6.4	8.1	7.4
陸上競技場	8.8	2.8	5.3
サイクリングコース	6.6	3.9	5.0
野球場	5.7	1.7	3.3
武道場	3.9	1.8	2.7
テニスコート	2.1	2.8	2.5
その他	8.4	4.5	6.2

(2つまで○印)

(2) 西予市のスポーツ施設に望むこと

表14は、西予市のスポーツ施設について望むことをあらわしたものである。全体では、「個人や家族で利用できるようにしてほしい」が30.4%と最も多く、次いで、「活動情報をもっと流してほしい」の26.2%、「利用料

金をもっと安くしてほしい」の17.3%となっており、市民が気軽にスポーツを行えない状況になっている。これらの要望は、すべて、総合型地域スポーツクラブが出来れば解決するものであると思われる。

性別で比較すると、差はみられない。

表14 西予市のスポーツ施設に望むこと (%)

項目	男性	女性	全体
個人や家族で利用できるようにしてほしい	27.9	32.3	30.4
活動情報をもっと流してほしい	24.2	27.7	26.2
利用料金をもっと安くしてほしい	14.8	19.1	17.3
スポーツ施設の数を増やしてほしい	17.5	14.8	15.9
利用手続きを簡単にしてほしい	17.2	14.8	15.8
専門的なスポーツ指導者を配置してほしい	15.0	13.3	14.0
用具を充実させてほしい（貸し出しを含む）	15.2	11.0	12.8
特定のスポーツ団体の専有をやめてほしい	12.7	6.3	9.0
利用時間を長くしてほしい（早朝・夜間）	6.8	7.7	7.3
その他	5.8	6.3	6.1

(2つまで○印)

(3) 西予市のスポーツ行政に望むこと

表15は、西予市のスポーツ行政に望むことについてあらわしたものである、全体では、「スポーツ施設の充実を図る」の43.0%が最も多く、次いで、「スポーツ指導者の育成を図る」の30.0%、「スポーツ情報（イベント・教室など）を提供する」の26.1%、「スポーツ教室を開

表15 西予市のスポーツ行政に望むこと (%)

項目	男性	女性	全体
スポーツ施設の充実を図る	41.9	43.7	43.0
スポーツ指導者の育成を図る	34.9	26.5	30.0
スポーツ情報（イベント・教室など）を提供する	22.4	28.8	26.1
スポーツ教室を開催する	20.1	25.3	23.1
スポーツ施設までの運行バスを配備する	10.9	23.5	18.2
全国レベルのスポーツ選手の育成を図る	22.0	13.1	16.8
イベントを開催し県内・県外から人をよぶ	13.6	11.3	12.3
トップレベルの選手や指導者による実技指導や講演会を開催する	17.0	8.5	12.0
スポーツ団体の補助金を充実する	13.3	9.8	11.2
どこでもいく出前のスポーツ教室を開催する	6.6	12.4	10.0
スポーツ指導者のネットワークを作る	8.2	4.7	6.2
スポーツ産業を育成する	5.5	2.8	3.9
スポーツドクターを市によんでもらう	4.5	3.4	3.8
その他	3.7	2.9	3.3

(3つまで○印)

催する」の23.1%、「スポーツ施設までの運行バスを配備する」の18.2%となっており、西予市に対して、様々な要望を持っていることがわかる。

性別で比較すると、「スポーツ指導者の育成を図る」「トップレベルの選手や指導者による実技指導や講演会を開催する」「全国レベルのスポーツ選手の育成を図る」と答えている人は、男性の方が女性より多くなっており、「スポーツ情報（イベント・教室など）」「スポーツ施設までの運行バスを配備する」と答えている人は女性の方が男性より多くなっている。このことから、男性は、西予市全体のスポーツレベルの向上を望んでいるのに対し、女性では、現在のスポーツ活動をより円滑に行うことを市のスポーツ行政に望んでいることがわかる。

以上の調査から西予市におけるスポーツ振興基本計画を作成した。

IV. スポーツ振興基本計画

1. 具体的目標

- (1) 市民の週1回以上のスポーツ実施率を50%にする。
- (2) 国体を目指して愛媛県で優勝する種目を2種目以上つくる。
- (3) 子どもの体力水準を向上させる。
子どものスポーツクラブ加入率を50%にする。
- (4) 公共スポーツ施設利用者を2倍にする。
- (5) 5町に総合型地域スポーツクラブを設立する。

国体までに市民の総合型地域スポーツクラブ加入率を10%にする。

2. 実現のための方策

- (1) 愛媛県との連携
 - スポーツ立県愛媛との連携を図る。
 - 国体の強化を通してスポーツに関する補助金の獲得する。

(2) 10年間のグランドデザイン

- 2007年：日本体育協会の総合型地域スポーツクラブ補助金の獲得
- 2008年：総合型地域スポーツクラブ1の設立
- 2009年：総合型地域スポーツクラブ2の設立

